

留学生だより

日本での夢

国際商経学部国際商経学科

グローバルビジネスコース 4年生

Chantavas Thanyaporn

(タイ)

2015年に初めて日本を訪れたとき、私にとっては初めての海外旅行だったが、家族と一緒にいろんな場所を回って日本の料理や観光地を好きになった。日本語は全くわからなかったが、困った時にはいつも誰か助けをくれた。その一度の旅行のおかげで日本に留学することが私の夢になった。



2016年に山梨県キャンパスの日本航空高等学校に入学した。日本語を勉強しながら日本語文化も学びたいと思って和太鼓を演奏する部活に入部にし

た。太鼓隊では和太鼓を叩くだけではなく、日本の先輩後輩の関係や礼儀を教えてもらった。演奏するにはコミュニケーション能力やチームワークが必要であると学んだ。この機会には日本に来なければ得られなかっただろう。

2020

年に兵庫県立大学に入学し、グローバルビジネスコースで様々な国の友達が一緒に勉強している。1年間の寮生活は楽しかった。ルームメイトと一緒に



京都まで行って着物を初めて着て、たくさんさんの写真を撮られた。1年後に一人暮らしの生活が始まり、自分で決めて行動する事が多くなった。これは社会人になる為の一つの練習の機会で、問題解決能力を高めている。日本に来てからのもう一つの夢は、遊園地で働くことがある。日本の遊園地の顧客サービスは非常に良いと感動したからだ。日本語をたくさん勉強して、今はこの夢を叶えることができた。夢は生活の力になり、頑張る気持ちを維持する方法でもある。毎日楽しく一つ一つの夢を叶えていきたいと思っている。

日本での留学生活について

社会科学部研究科経営学専攻 1年生

楊宗達 (台湾)

日本教育を受けていた祖父の影響に加え、父は日本企業の台湾支社で貿易関係の仕事をしていた影響で、私は幼い頃から日本について大変興味を持っている。日本企業の元社長も私を孫のように扱ってくれた。当時、まだ日本語が話せなかったが、日本人の優しさを深く感じていた。このような環境で成長した私は、幼い頃から日本の文化や生活に憧れていたため、日本に留学することを決めた。今年で来日してから6年目になり、現在は兵庫県立大学の社会科学部研究科経営学専攻で修士論文をはじめとし、企業経営や組織行動から、マーケティングや財務マネジメントなど様々な分野を学んでいる。また、コンサルティング・プロジェクトの講義で知識を活用し、実際の課題の解決策を提案することも頑張っている。

留学することを通じて、様々な人と出会い、多様な価値観を受け入れることができた。特に、日本人の友達がいつも多くの日本文化を教えてくれるため、普段知る機会がない日本文化、地域の特徴や日本人の考え方などを知ることができた。留学生活を通して、勉強も生活も日本の皆さまの世話になっていると私はい

つもありがたく思っている。留学で得た、国境を越えた人と人の絆は、未来、私にとって心を癒し身体を支える強健な柱になると信じている。

将来は日台貿易関係の仕事を通じて、国際間の交流を促進したいと思っている。祖父や父のように、日本企業との貿易を通じて国境を超えた信頼関係を築き、何十年も続く友情を築くことに非常に憧れている。一人の力が弱くても、協力して支えあい、貿易を通じて日台友情をより深めるといふ夢を現実のものとするべく、頑張っていきたい。「留学して後悔する人なんていない」という言葉があるが、私も留学したことに後悔の気持ちはない。大学院を卒業した後は新たなステージに上がり、そこから自分の夢をどんどん実現していくことに期待している。

